

1

特性列挙法 (属性列挙法)

「物・感性・働き」で特性を列挙し発想

特性列举法 (属性列举法) 概要

1. 列举



2. 处理



3. 発想



特性列挙法 (属性列挙法) 概要

1. 列挙

3つの観点（**名**詞的属性、**形**容詞的属性、**動**詞的属性）を念頭におき、改良を試みるものが持つ属性を列挙していく ※

2. 処理

重複を**消す**。矛盾属性は、本質的な方に**絞る**。列挙したものを「名」「形」「動」に**分類**。各属性ごとに漏れがあれば**加える**。

3. 発想

属性一つ一つに対して、その属性を「**もっと利用する**」「**別の物に置き換える**」ことで、改良できないかと、考える。

※ この「観点」は、具体的には、なに？

※ この「観点」は、具体的には、なに？

名詞的属性 : 全体、部分、材料、製法

形容詞的属性 : 性質

動詞的属性 : 機能

出典『新版・創造力事典』

簡単に言えば、

まず、

- モノとして見る (**名詞**)
- 機能・働きとして見る (**動詞**)

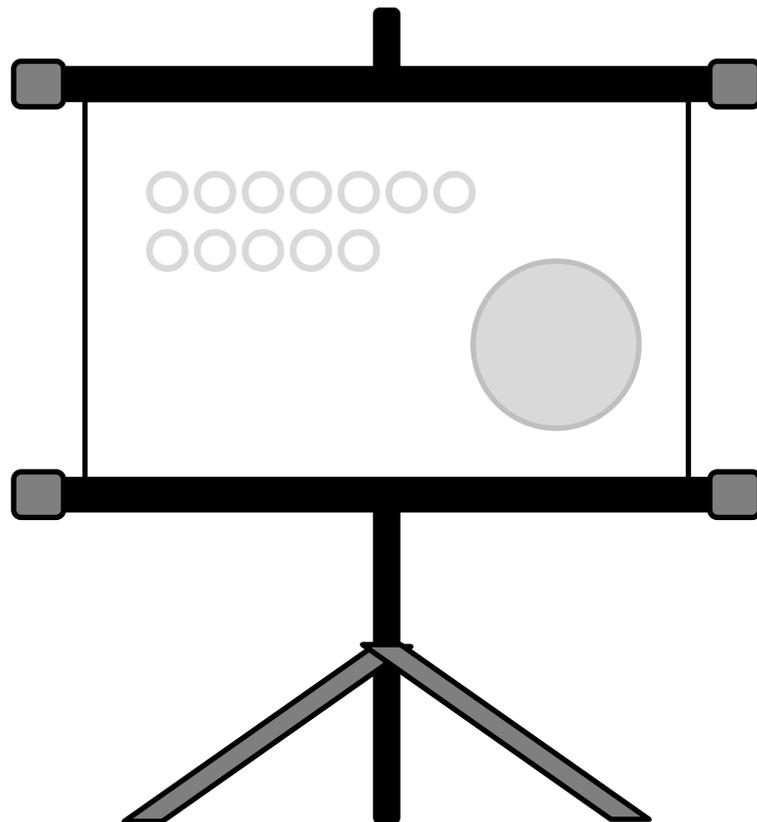
あとは、そこに含まれない

- 五感で感じるところを挙げる (**形容詞**)

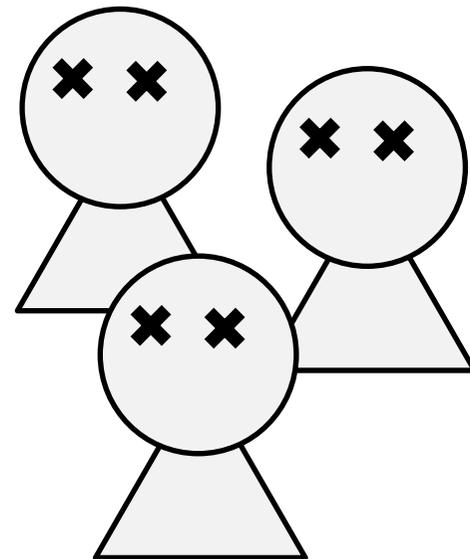
(現代の製品では、形容詞的なところは、製品の要素として、大きい)

発想例 「暗いスクリーン」

明るい部屋でスライドを見やすくするにはどうすればいいか？

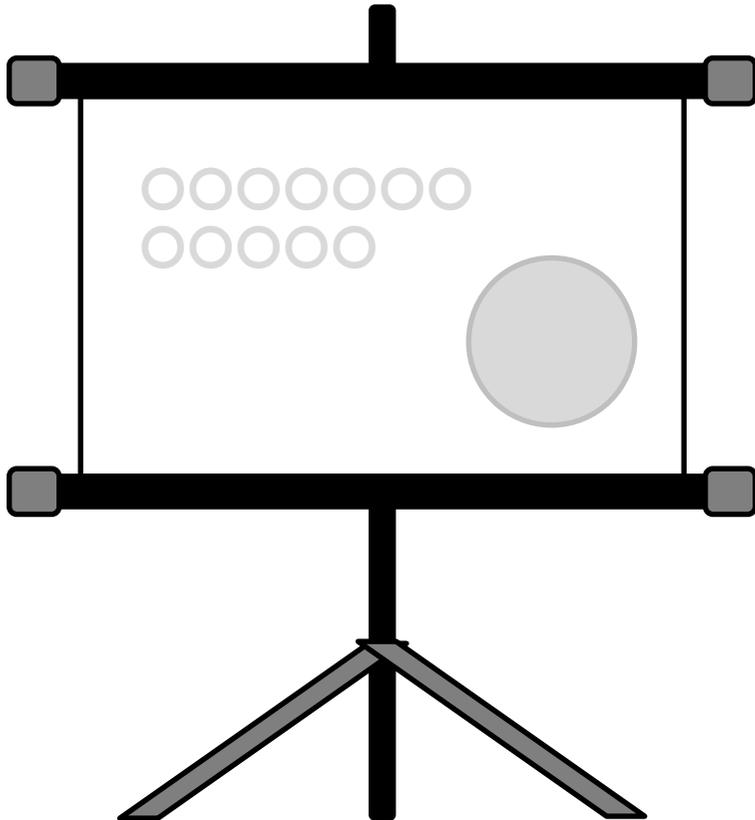


見えにくい・・・。



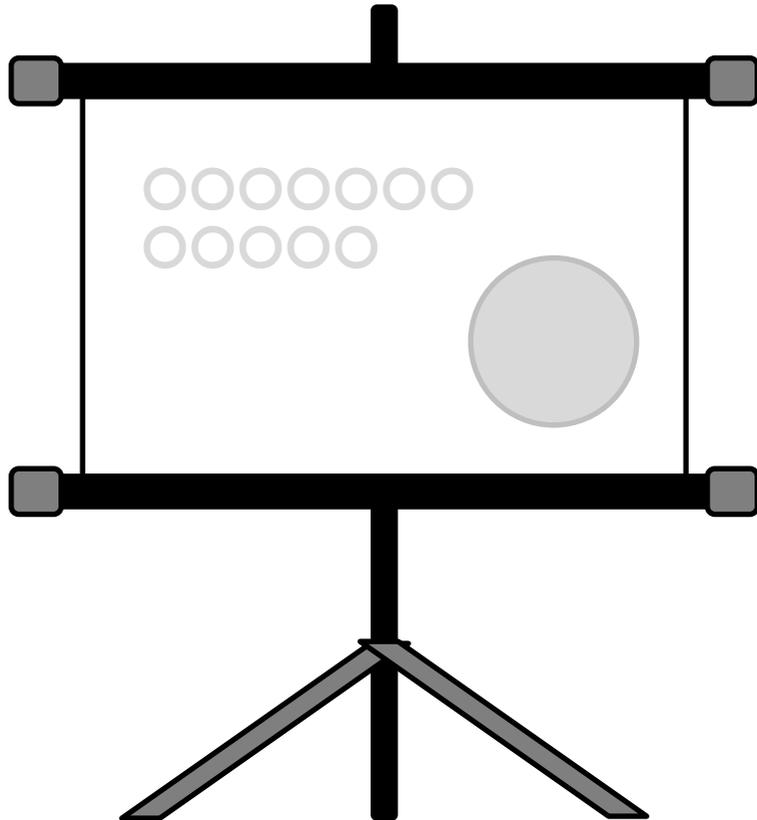
1. 列挙

- モノとして見る（名詞）
- 機能・働きとして見る（動詞）
- 五感で感じるところを挙げる（形容詞）



1. 列挙

- モノとして見る (名詞)
- 機能・働きとして見る (動詞)
- 五感で感じるところを挙げる (形容詞)



全体・部分)

大きいシート、黒いケース、
広げておく棒、立たせるス
タンド、中に巻き取るばね、
反射を防ぐざらざらの表面

材料)

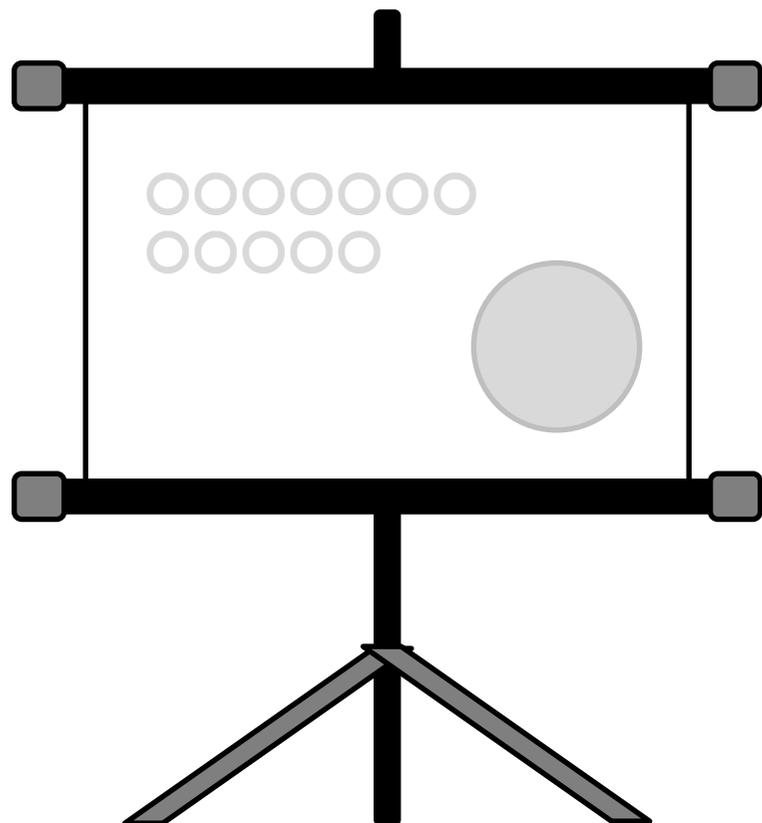
金属、樹脂

製法)

プレス、接着、かみこみ

1. 列挙

- モノとして見る（名詞）
- 機能・働きとして見る（動詞）
- 五感で感じるところを挙げる（形容詞）



機能)

よく光を反射する

（投射光をぼかさない）、

色の発色を妨げない

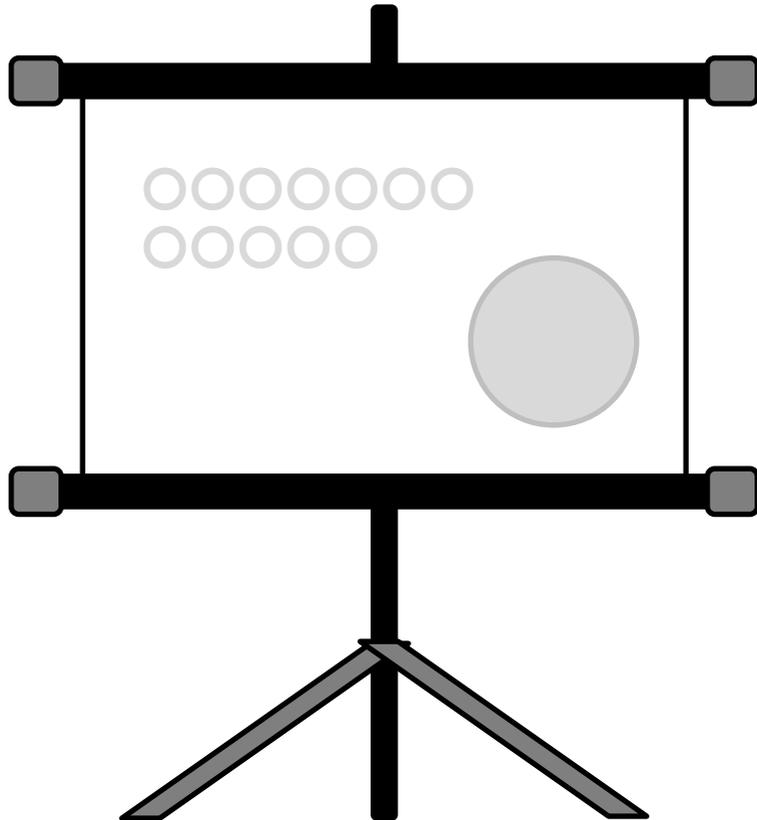
（色味を正しく出す）、

映像を欠けさずに表示する

（壁面は柱等の凹凸で情報が欠ける）

1. 列挙

- モノとして見る（名詞）
- 機能・働きとして見る（動詞）
- 五感で感じるところを挙げる（形容詞）



性質)

重い、まっすぐ

状態) *

ざらざら、ぺらぺら、白い

2.処理

重複を**消す**。矛盾属性は、本質的な方に**絞る**。
列挙したものを「名」「形」「動」に**分類**。
各属性ごとに漏れがあれば**加える**。

2.処理

重複を**消す**。矛盾属性は、本質的な方に**絞る**。
列挙したものを「名」「形」「動」に**分類**。
各属性ごとに漏れがあれば**加える**。

重複 =

矛盾 =

2.処理

重複を**消す**。矛盾属性は、本質的な方に**絞る**。
列挙したものを「名」「形」「動」に**分類**。
各属性ごとに漏れがあれば**加える**。

重複 = “ざらざら”

矛盾 = “白い”と黒いケースの“黒” → “白い”を残す

“ぺらぺら”と“重い” → “ぺらぺら”

2.処理

重複を**消す**。矛盾属性は、本質的な方に**絞る**。
列挙したものを「名」「形」「動」に**分類**。
各属性ごとに漏れがあれば**加える**。

名詞的属性

動詞的属性

形容詞的属性

2.処理

重複を消す。矛盾属性は、本質的な方に絞る。
列挙したものを「名」「形」「動」に分類。
各属性ごとに漏れがあれば加える。

名詞的属性

- 大きいシート
- ケース
- 金属
- プレス
- 樹脂
- かみこみ
- 接着

動詞的属性

- 立たせる (スタンド)
- 広げておく (棒)
- よく光を反射する
- 映像を欠けさずに表示する
- 巻き取る (ばね)

形容詞的属性

- 反射を防ぐざらざらの表面
- 白い&色の発色を妨げない
- ぺらぺら
- まっすぐ

この分類作業は、さほど厳密さは要らない

2.処理

重複を**消す**。矛盾属性は、本質的な方に**絞る**。
列挙したものを「名」「形」「動」に**分類**。
各属性ごとに漏れがあれば**加える**。

名詞的属性

- 大きいシート
- ケース
- 金属
- プレス
- 樹脂
- かみこみ
- 接着



2.処理

重複を**消す**。矛盾属性は、本質的な方に**絞る**。
列挙したものを「名」「形」「動」に**分類**。
各属性ごとに漏れがあれば**加える**。

名詞的属性

- 大きいシート
- ケース
- 金属
- プレス
- 樹脂
- かみこみ
- 接着
- 布

← 名詞的属性に、素材として「布」が抜けているので、加える

3.発想

名詞的属性を

「もっと利用する」 「別の物に置き換える」

大きいシート 「

」

ケース 「

」

接着 「

」

3.発想

名詞的属性を

「もっと利用する」 「別の物に置き換える」

大きいシート 「もっと大きくし、張り出させ、
庇(ひさし)を形成」

ケース 「 」

接着 「 」

3.発想

名詞的属性を

「もっと利用する」 「別の物に置き換える」

大きいシート 「もっと大きくし、張り出させ、
庇(ひさし)を形成」

ケース 「ケースが蛍光灯カバーに」

接着 「天井に張り付く、巨大ポストイットを付属」

金属 「放熱性があるので、蛍光灯カバーに」

プレス 「蛍光灯カバーにしたときの放熱性と落下時の安全性を考えた形状に」

かみこみ 「天井に天幕を張ったらその一端を固定するクリップが付いている」

布 (特になし)

樹脂 (特になし)

3.発想

動詞的属性を

「もっと利用する」 「別の物に置き換える」

立たせる (スタンド) 「 」

よく光を反射する 「 」

映像を欠けさずに表示する 「 」

3.発想

動詞的属性を

「もっと利用する」 「別の物に置き換える」

立たせる (スタンド) 「スタンド上部に傘を設置する」

よく光を反射する 「

」

映像を欠けさずに表示する 「

」

3.発想

動詞的属性を

「もっと利用する」 「別の物に置き換える」

立たせる (スタンド) 「スタンド上部に傘を設置する」

よく光を反射する 「蛍光灯の波長領域だけを吸収してしまおう表面材にする (仮説的な案)」

映像を欠けさずに表示する 「逆に、激しく欠けさせる。1/4画面で大きく映せる (スクリーン以外の改良案)」

拡げておく (棒) (特になし)

巻き取る (ばね) (特になし)

3.発想

形容詞的属性を

「もっと利用する」

「別の物に置き換える」

ぺらぺら「

」

反射を防ぐざらざらの表面「

」

白い&色の発色を妨げない「

」

3.発想

形容詞的属性を

「もっと利用する」 「別の物に置き換える」

ぺらぺら 「二枚にし、一枚は天井に静電気で」

反射を防ぐざらざらの表面 「

」

白い&色の発色を妨げない 「

」

3.発想

形容詞的属性を

「もっと利用する」 「別の物に置き換える」

ぺらぺら 「二枚にし、一枚は天井に静電気で」

反射を防ぐざらざらの表面 「プロジェクターの光の方向の反射率を上げるように変化する微細表面
(仮説的な案) 」

白い&色の発色を妨げない 「照らされた色に感応し、徐々にその色の発色をする特殊な素材を使う
(仮説的な案) 」

使い方の工夫から、本格的な追加開発の必要なアイデアまで。

自分が「開発者」であるのか「会場係」であるのかで、選ぶべき解が変わる。

発想法としては、広く出し、後で絞る方が、効率的。

ワーク

テーマ「薄くなるボードマーカ―」

ボードマーカ―が徐々に薄くなるが、
最後の1%までくっきり出したい。
どうすればいい？

ペアワーク（列挙=9分、処理=1分、発想=10分）

1.列挙

- ・モノとして見る（名詞）
- ・機能・働きとして見る（動詞）
- ・五感で感じるところを挙げる（形容詞）

2.処理

重複を**消す**。矛盾属性は、本質的な方に**絞る**。
列挙したものを「名」「形」「動」に**分類**。
各属性ごとに漏れがあれば**加える**。

3.発想

名詞的属性・**動詞的**属性・**形容詞的**属性を
「もっと利用する」「別の物に置き換える」

名詞的属性

モノとして見る

(全体、部分、材料、製法)

-
-
-
-
-
-

動詞的属性

機能・働きとして見る

(機能)

-
-
-
-
-
-

形容詞的属性

五感で感じるところを挙げる

(性質・状態)

-
-
-
-
-
-

名詞的属性・動詞的属性・形容詞的属性を「もっと利用する」「別の物に置き換える」

idea :

idea :

隣の人と、アイデアを紹介しあいます（4分）

いくつかの、余談

(発想技法として、細かいことも、吟味したい方向け)

この手法は単純だが人間の発想の特性をうまく活用している。新版・創造学事典の同技法の説明冒頭を引用すると

「ポイントは、簡単に言えば**「問題は小さくすればするほど、アイデアが出やすくなる」**と**「いろいろな物（製品、部品）には、それぞれ属性がある」**の2つの考え方を組み合わせて考え出された技法である」

...

特に前者について似ている技法がある。

「マトリックス法」や「シネクティクス法」における「アイテムイズ・レスポンス（項目立てて発想）」というアプローチ。

発想する対象が広すぎる場合は、条件や属性などで積極的にカテゴリに分け、そのカテゴリの中で発想する。

例えば「新しいウォーキングの方法」を発想する場合なら「雨の日、晴れの日、風の日」など天候軸で分けその中での新しいウォーキングの方法を発想し後に発想していく。「スニーカーの時、革靴の時、はだしの時」と靴のタイプで切ることもできる。（なお、切る軸は自由度がある。切り方により発想されるものは違う。）

名詞的属性、形容詞的属性、動詞的属性、という3つの属性の網羅性について：

この3属性は、人の発想の観点領域の半分以上をカバーする観点のセットである。

まず、拙著『アイデア・スイッチ』では発想の主な観点として「6観点リスト※」を紹介したが、この切り口は唯一無二ではない。状況や目的によっては観点の切り口は変わる。

次に、特性列挙法におけるこの**名詞・形容詞・動詞**という3つの切り口は6観点リストに照らすと、**もの**（名詞）・**五感**（形容詞）・**プロセス**（動詞）にあたる。

人間も含むシステムであれば**ひと**（動詞）・**意味価値**（形容詞）も含まれる。

それでもなお、含まないのは、**環境**だけである。しかし対象とする物体が、巨大構造物の場合には、**環境**も名詞的属性・動詞的属性にまたがり含まれる。

6観点のうちこの3つ（ひと、意味価値、環境）は、「ある程度小さい物体」を対象に発想する場合には、無くても十分である。なので、名・形・動の3属性で、およそ物の工夫の発想においては、寒天として、網羅性があるものとして用いても良いだろう。

※「6観点リスト」：「**ひと・もの・プロセス（動きや関係性）・環境・意味価値・五感**」

余談の余談：

属性として、1つ拡張するなら？

現代のように感性を正面からとらえるタイプの商品アイデアを発想する時には、「○○詞的属性」に、もし仮に1つ加えるならば「**感嘆詞**的属性」、つまり「**驚き、感心、強い不満、激しい賛同、苦痛、感動**」などが、感性価値の面を明示的に引出す可能性があるだろう。

特性列挙法は、USIT技法における「**属性分析**」という技法の“増大関係”“減少関係”のうち“減少関係”の部分をよりクローズアップし発展させたものとしても位置付けし得る。

USITでは、その“系”（対象と、それを取り巻く周辺の環境を、1つのシステムとしてみて、系、とここでは言うが）を、よく見て、属性を列挙する。その属性の値が増えるほど、困ることを増やすものを“増大関係”とよぶ。その逆を、“減少関係”とよぶ。列挙したすべての属性をこの2つに分けていく。

減少関係の属性については、できるだけ、その属性の値を大きくするように努めてみる発想をする。良い効果があるのでそれをもっと利用する、という発想の仕方である（なお、増大関係は、逆に、その属性の値を出来るだけ小さく抑える工夫を考える）

特性列挙法、という発想手法は、通常人が行う発想の基本的なやり方（いわば切り口探し志向の発想のやり方）である。多くの技法にこの技法の要素がみられる。

特性列挙法は、やればできるという敷居の低さがある反面、新規性の高いアイデアを考案するには、すこしやり方に工夫が要るだろう。例えば、**工夫発想のための発想トリガー**等を使うとよい。